

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号 10 学校名 岐南工業高等学校

<p>学校教育目標 (教育方針)</p>	<p>校訓「創意実践」のもと、知・徳・体の調和を目指し、心豊かで、創造力・実践力のある産業人を育成します。 全ての教育活動を通して「自立力」「共生力」「自己実現力」をバランス良く身に付けた人づくりを目指します。</p>	
	<p>どんな生徒を 育てたいか 【GP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に行動し責任を持ち、基礎・基本を身に付けた生徒 ・自己の役割を認識し、周囲と協力し、工業の発展のために積極的に自己の能力を生かそうとする生徒 ・規範意識・倫理観・創造力・実践力等、職業人として必要な資質を身に付け、工業技術を活用し社会に貢献する生徒
<p>3つの方針 (スクールポリシー)</p>	<p>生徒をどう 育てるか 【CP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業界との連携や課題研究等を通し主体的に学び続ける力、課題解決能力、職業人として必要な資質や能力を育成 ・ものづくりや資格取得、各種コンテストへの参加から、知識・技能を習得、社会人基礎力を身に付けた人材を育成 ・学校行事や部活動及び生徒会活動から心身の健全な発育、仲間意識、責任と規律を重んずる態度を育成
	<p>どんな生徒を 待っているか 【AP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を持ち、専門的な知識と高度な技術の修得に誠実に取り組み、地域産業の発展を支える人材になるという意欲のある生徒 ・多様な人々とのつながりを大切にし、他者と協働し目標に向け努力する生徒 ・高校生活に明確な目標を持ち、学習だけでなく資格取得や部活動にも意欲的に取り組むことができる生徒
<p>学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の理解の質の向上と確かな学力の育成 ・産業界等と連携した実践的・体験的な学習の一層の充実 ・ICTを活用した学習活動の充実に向けた教職員のICT活用指導力の一層の向上 ・熟練技能者による体験授業の実施と授業内容の一層の充実 	
<p>教育指導の重点</p>	<p>領域・分野</p>	<p>今年度の具体的な重点目標</p>
	<p>学習指導</p>	<p>確かな学力の定着・向上を図ります。</p>
	<p>学習指導</p>	<p>ものづくりを通じた人づくりを推進します。</p>
	<p>特別活動</p>	<p>部活動を通じた人づくりを推進します。</p>

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	基礎学力の定着のための指導をします。	8	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価の結果 生徒・保護者のアンケート結果（8割以上の肯定的回答を目指す） 研究授業・公開授業の教員間評価や感想 	B	<ul style="list-style-type: none"> 工業の実習において、実践的・体験的な学習活動を通し、課題解決力の向上ができた。また、地域産業を支え社会に貢献しようと主体的・協働的に取り組む姿勢を育成することができた。 ICTを活用し、学級閉鎖、感染症等の出停者へ授業動画配信をするなど、学びの保障を整えていく必要がある。 	
	相手の話を聞き、気持ちを理解し、自分の考えを伝える取組をより一層行い、コミュニケーション力の育成を推進します。	8	施策Ⅱ-8				
	全職員の共通理解のもと、規律ある授業で学力向上を推進します。	8	施策Ⅱ-8				
	ICTを活用した授業の実践等、指導力の向上を図ります。	9	施策Ⅱ-9				
学習指導	授業や産学官連携の取組や地域イベントを通して、ものづくりの楽しさ・大切さを理解させ、地域に貢献できる人材の育成を推進します。	10	施策Ⅱ-10	<ul style="list-style-type: none"> 技能検定等の合格者数の比較 各科の各種コンテスト結果 インターシップの評価や感想 生徒・保護者のアンケート結果（8割以上の肯定的回答を目指す） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の一般企業の内定率は100%であった。また、難易度の高い公務員に合格した。 資格の取得率を高めるために、生徒へのさらなる声掛けが必要。 様々なコンテストで入賞することができた。 	B
	インターシップを実施し勤労観・職業観の育成をします。	13	施策Ⅱ-13				
	技能検定等の資格取得ができるように指導します。	8	施策Ⅱ-8				
	各学科の特徴を生かした競技会（ものづくりコンテスト等）に積極的に参加できるように指導します。	10	施策Ⅱ-10				
特別活動	「時を守り、身をただし、元気にあいさつ」のもと、規律正しい生活習慣が確立できるように指導します。	19	施策Ⅲ-19	<ul style="list-style-type: none"> 部活動やボランティア活動参加人数や回数（全国大会出場増加） 生徒・保護者のアンケート結果（8割以上の肯定的回答を目指す） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数が近年の中で激増している。主に寝坊や体調不良であるため、生活習慣改善を繰り返す必要がある。 文化祭の内容を生徒会を中心に検討し充実させることができた。 幼稚園への出前授業やイルミネーションを企画・実施し、生徒が様々な体験をすることができた。 	
	他者への思いやりをもち、お互いを認め合い、支え合いながら切磋琢磨していく向上心を育成します。	1	施策Ⅰ-1				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月7日

学校関係者評価

実施日：令和7年2月7日

- 学科横断的な取り組みを検討し、生徒が幅広くものづくりの楽しさや社会とのつながりを実感しながら学べる環境を整える。
- 朝学習において、クラスごとに指導の内容・進度が異なることが多く、全体的な底上げにつながっていないため、来年度は朝学習を廃止し、基礎学力の定着に向けた新たな取り組みを検討していく。
- 教科会を充実させ、引き続き授業方法・評価方法を検討していく。
- 全職員で就職・進学指導を行っていきけるよう、企業及び上位学校の研究などを通してキャリア教育に関する職員研修の充実を図る。
- 「情報モラル」に関する指導において、Webや動画・学習用資料を用いて継続的に指導していく。
- コミュニケーション力不足に伴う生徒間トラブル等が散見されることから、予防的なプログラムを生徒に実施する。

- 挨拶がしっかりできる生徒が多いと思う。コミュニケーション能力不足については伝え方、国語力の弱さではないか。
- 自分の気持ちを上手く伝えられない生徒を、どのように指導していくのが今後の課題である。
- 出席できない生徒への動画配信についてさらなる検討をしていただけるとよい。